

春高怪物列伝 大木正美さん

怪物のDNA

ひさしぶりの「春高怪物列伝」だ。

これを言ったら元も子もないのだが、私はスポーツは才能で決まると思っている。

だから私くらいの器の選手がいかに頑張っても全国的な選手にはなれない。よほど競争率が何かの偶然で下がれば別だが、そういう確率は通常はおきない。

ただうまくトレーニングを重ね研鑽し、集中力の向上から来る「勝負強さ」を兼ね備えていれば、県大会入賞という素晴らしい可能性は残されている。

さて、ここまでは一般論だ。

いわゆる「クラスではすこし脚が速い」・・・という、我々レベルの目標である。

そして、こういった領域をはるかに超越する才覚に満ち溢れた「選ばれし者」は確実に存在する。

春高陸上部なら誰もが認める「怪物の遺伝子」ファミリー。

後藤 均さん、秀夫さん

大木茂男さん、伸男さん、正美さん

瀬上（大島）節夫さん、裕司。

親子、兄弟でインターハイ、国体で優勝もしくは表彰台に必ず上がる「モンスター」だ。

この中で私がまだお会いしたことのない唯一の大先輩がいる。

そしてついに念願かなって、ご本人からお話を聴く機会に恵まれたのであった。

それは大木正美さん。

春高最強のハードラーである。

1年生でインターハイ入賞

その日は埼玉陸上大会がしらこぼとで開催されていた。正美さんは大会会長。私は、娘が小学生の部に出場するため会場に来ていた。

現場がお好きなようで、会長でありながら自らマイクを持ち、スタート地点で会場に選手の紹介をアナウンスするほど。

見ていた竹村さんが「大木さん、好きだなあ・・・」と微笑む。

「あの人が正美さんか・・・」

私はいま一度その輝かしい競技歴を振り返った。

大木3兄弟は、全国的に有名であったようだ。

長兄の茂男さん（高1 1回）が100m 6位。

次兄の伸男さん（高1 4回）が幅跳び三段跳び 優勝

そして正美さん（高1 8回）が1年次に200mHで6位、3年次に200mH 3位、400mR 6位、国体は2年次に110mJHで4位

・・・という、あまりにも豪華な兄弟の活躍。

正美さんは春高入学と同時に110mJH、200mHで県大会優勝、800mRも勝って3冠となる。

春高の黄金時代、県の優勝くらい数え切れないほど存在したのだが、15歳でいきなりのハードル2冠となれば「さすが・・・」とってしまう。

その翌月の関東大会は以下の結果。

第16回関東高校対抗選手権大会

800	2.04.2	百瀬	弘之
110H	15.5	大木	正美
200H	26.7	大木	正美
4 × 200	1.34.2	金沢、寺尾幸	寺尾二、大木
走幅跳	6.87	寺尾	幸村
三段跳	13.83	寺尾	幸村

棒高跳	3.60	羽賀	浩次
砲丸投	13.39	後藤	秀夫
円盤投	41.51	山口	茂
保投	56.32	浅見	信
5種競技		3003	後藤 秀夫
5種競技		2713	新島 宣起

そのままインターハイへ突き進み、1年生ながら入賞を果たす。

第16回全国高校対抗選手権大会

200H	26.1	大木	正美
保投	54.33	浅見	信
5種競技		3326	後藤 秀夫

・・・ご本人いわく

「1年のときは新潟インターハイだったなあ・・・いやあーすごい暑くてさあ・・・」と夏を振り返る。

2年生のときは、大きな故障していたのか・・・試合成績に全く名前が載っていない。秋のシーズンには回復したようで、国体で入賞も果たしている。県民体育大会で110mH 「14秒6」と現在でも通用するスーパーな記録をマークする。

第19回国民体育大会

110JH	15.2	大木	正美
走幅跳	6.72	後藤	秀夫

怪物は「きさく」な先輩

正美さんは、20歳も年下の私に笑顔で語りかけてくれた。

「お！何？・・・そう春高！何回？ 37回か、若いなあ！ 今、何やってんの？へー、歯医者！ どこで？ おっ、そこ知ってるよ！・・・」

・・・という具合である。

こうも付け加えた。

「あ！君ら「大木は練習嫌いで、試合しか本気で走らなかった」・・・とか思ってるんじゃないの！？」

(・・・誰もそんなことは思っていないのだが、当時からそう言われてきたのだろうか・・・)

「でもねー練習がいやでさあ・・・」

「そんなに厳しかったんですか？」

「いやー関根先生は穏やかなんだけどさー、他の先輩達がさー、燃えちゃってさー・・・」

「・・・はあ・・・」

(そりゃ熱くなるでしょ。毎年インターハイで表彰台登ってんだから・・・)

「聞いてよ、野本くん！正門から帰ろうとすると後藤(秀夫)さんが待ち構えててさー、八幡神社のほうから逃げようとするとう関根先生がしっかり見てるのよ！！・・・困っちゃったよ！！」

「・・・はあ・・・なるほど・・・」

(ええっ！？それ幽霊部員のすることでしょ？ あなたスターでしょ？)

・・・と、口には出せぬがぐっと笑いをこらえた私であった。

末弟らしいユーモアあふれるキャラクターであったのだろう。

しかしこれには「大木三兄弟」であるがゆえのプレッシャーの裏返しではないかと思った。

「大木兄弟なんだから・・・」「脚は速くてあたりまえ」「試合で勝ってあたりまえ」・・・そういう雰囲気が出来上がっていたのかな・・・と思う。

周囲も悪気はないのだろうが、実際に入学と同時に「期待以上に強い」

もはや宿命ともいえるその働き。

3年次には、昨年のうさを晴らすよう連勝した。

関東も余裕のハードル二冠。

リレーも400mRと1600mRに分かれた年なので、ダブルで入賞。

3冠、2位をひとつと大車輪の活躍をみせた。

第18回関東高校対抗選手権大会

200	23.6	木戸	修二
400	51.3	木戸	修二
110H	15.1	大木	正美
200H	25.5	大木	正美
4 × 1 0 0	44.1	松沢、木戸	
		金沢、大木	
4 × 4 0 0	3.29.5	渡辺、高橋	
		大木、木戸	
走高跳	1.80	堀部	武男
円盤投	41.76	小島	正敏
やり投	53.50	斎間	晃
保投	57.16	東	秀昭

8月の総体では200mHでついに表彰台に上がった。
400mRも当事としては夢の43秒台で5位入賞。
春高のリレー入賞は、これ以降2005年に一度だけ。
18回と58回の二度しかない。

第18回全国高校対抗選手権大会

200H	24.9	大木	正美
4 × 1 0 0	43.5	松沢、大木	
		金沢、木戸	

最後に正美さんがぼつりと本音を・・・

「いやぁ・・・兄貴たちが強いからさぁ・・・
おれも大変だよ　ははは」

(いえいえ、十分にスーパーな強さですよ。
超人です・・・)

私は心の中でそうつぶやきながら、尊敬する偉人と家族写真を撮らせていただいた。



筆 撮　　37回　のもと